



『学び舎の移り変わり』

今回は「関西工学専修学校」開校期から、終戦を迎えるまでの校舎の移り変わりを紹介します。

1. 豊崎校地 ～ はじまりはここから ～



【写真上】関西工学専修学校仮校舎
【写真下】学園発祥の地の碑

学園の始まりである**関西工学専修学校**は、1922（大正11）年9月7日付で大阪府知事から設置認可を受け、同年10月1日、大阪市外豊崎町（現在の大阪市北区豊崎・本庄町あたり）の地で開校しました。**豊崎第五尋常高等小学校**（現在の大阪市立豊崎中学校）の旧校舎を借用した仮校舎での出発でした。

創設当初の講師陣は45人で、本科は帝国大学や高等工業学校を卒業した大阪府・市の上級技術者、京都帝国大学の新鋭学者、電鉄・電力会社の技術者たち、予科は旧制中学教員たちが教鞭をとりました。

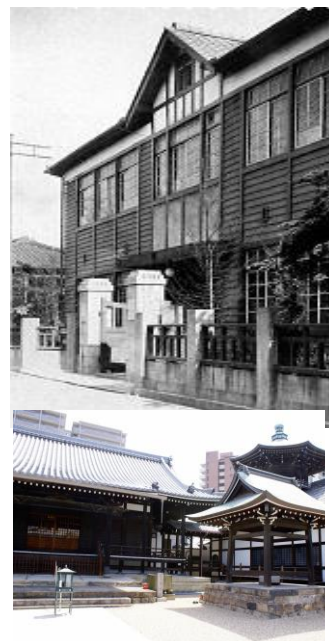
工業教育への高い関心と働きながら学べるという利点に加え、開校を報じる新聞広告などの効果で入学希望者数は予想を上回り、入学許可者は合計589名になりました。

2. 樋之口校地 ～ 盛況を極める関西工学専修学校 ～

小学校での仮校舎生活は設備の問題などもあり、生徒たちにも不便を強いていました。そこで学園は、近隣の大阪府有地を借用して校舎を建築し、1923（大正12）年7月に**樋之口校地**（現在の大阪市北区国分寺）に移転しました。

しかし、翌年1月に隣接家屋からの出火により3棟あった校舎のうち2棟を延焼で焼失。残存校舎と再び一部借用した豊崎第五尋常高等小学校で授業を再開する一方、火災保険の保険金などを財源にして平屋建て校舎を昼夜兼行の突貫工事で新築し、3月から新校舎で授業が行われました。

また、関西工学専修学校の授業が行われない昼間に授業を行う**大阪高等予備校**（旧制高等学校等受験者を対象）が1924（大正13）年4月に同校地内に付設されました。



【写真上】樋之口校地
【写真下】校舎が隣接していた
鶴満寺の現在の様子

3. 南方校地 ～ 学園初の専有校地 ～



【写真上】南方校地
【写真下】南方校地跡地

関東大震災の影響などもあり年々入学者が増える中、いつまでも仮校舎で授業を続けるのは在校生からの不満も募るため、1926（大正 15）年 2 月の理事会で、大阪市東淀川区（現在は淀川区）南方町の土地買収を議決しました。同年 4 月の理事会では南方校地の校舎建築を議決し、同年 10 月に木造 2 階建て 1 棟、平屋建て製図室 1 棟からなる**南方校地**が誕生しました。

学園が 1927（昭和 2）年に「我邦最初の夜間授業実業専門学校」と宣伝し、樋之口校舎に開設した**関西高等工学校**も翌年 2 月には南方校地に移転が完了しました。

このように、学生数の増加に対応するため南方校地では 6 期にわたる工事で校舎が増築され、学園の基礎も着実に拡大しました。

4. 城北校地 ～ 城北の地に白亜の殿堂が完成 ～

昼と夜に分かれているとはいえ、約 4,000 人の生徒を収容するには、さらなる校舎の拡張・増築の必要がありました。また、将来的に高等工業学校等の設立を視野に入れた校舎を建設するためにはまとまった土地が必要でした。



【写真】城北校地に完成した鉄筋校舎（1938 年頃）

1935（昭和 10）年の理事会で、大阪市東淀川区豊里町（現在の旭区大宮・中宮）の土地買収を決定し、翌年 11 月に鉄筋コンクリート造り 3 階建ての校舎が完成しました。引き続き建てられた本館の屋上にはネオンライトで描かれた「関西工学」という文字が輝き、白亜の校舎も当時としては希有な建物でした。この校舎は建て替えられましたが、今日も**城北校地**（現在の**大宮校地**）は学園の本拠地として認知されています。

常翔歴史館ではこのたび展示品の一部入れ替えを行い、学園創設時の時代背景や初代校長の片岡 安が携わった建築物の紹介、ラグビー関係の資料等を新たに展示しました。

自校史学習の一環として、ぜひ生徒・学生のみならずご来館ください。

① 開館時間：月曜日～金曜日の 11:00～17:00

【学園が定める休業日は除く】

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務室

（内線／大宮 801-7762、外線／06-6955-7762）



展示中の南方校地および城北校地の模型